

ワークショップ(仮称)中央図書館をつくろう2

豊中市では令和10・11年度に(仮称)中央図書館の開館を予定しております。

本市初の「中央図書館」の具体化に向け、これまでお寄せいただいた市民の皆さまのご意見やアイデアを整理し、今年度策定する「(仮称)中央図書館整備計画」をまとめるため、グループ討議や意見交換中心のワークショップスタイルで開催(3回連続)することになりました。

◆ 10月13日(日曜)のようす(参加人数=15人)



時 間	内 容
10:30~	☐ ワークショップの全体説明 ☐ 「基本構想」および「みらいプラン」に基づき、(仮称)中央図書館を核とする(役割・機能)新しい図書館ネットワークについて(説明) ☐ とよなかブックプラネット事業の現在について(説明)
11:00~	☐ グループワーク:自己紹介・ワークショップに参加した理由(1人2分程度)
11:15~	☐ アンケート実施結果について(説明) ☐ 本日のワーク内容について(説明)
11:25~	☐ グループワーク:意見やアイデア整理(※本日は意見交換内容の発表しない)
12:20~	☐ 次週、取組み内容について(説明) ☐ 参加者アンケート記入



タイムテーブル

まず、ワークショップの目標を確認しました。

- アンケートやワークショップで得た意見やアイデアを整理し、整備計画にまとめる。
- 基本構想の内容や(仮称)中央図書館のサービスなどについて皆さんと共有する。
- 中央館の役割や機能を踏まえて、サービスや諸室のあり方について意見交換する。

<経過説明>

配付資料に基づき、中央館設置に向けて事業の進捗状況や、今後の予定などについて説明しました。

基本構想やみらいプランの(仮称)中央図書館に関わる内容を説明し、今回のワークに取り組んでいただくための基礎的な考え方を共有しました。

そして、中央館の役割・機能の1つである「とよなかブックプラネット事業」について、主な取組内容を紹介しました。

【資料3・4】

10月13日 配付資料リスト

1. 各種アンケートの自由記述抜粋(事前送付)
2. アンケート結果ダイジェスト版(事前送付)
3. (仮称)中央図書館をつくろう2ワークショップまとめ
4. とよなかブックプラネット事業について
5. 基本構想【概要版】
6. みらいプラン【概要版】
7. 参加者アンケート

＜グループで自己紹介＞

（仮称）中央図書館に係る説明のあと、グループで取り組む時間を設けました。（15分）

自己紹介と今回のワークショップに参加した理由などを話し合いました。はじめて顔を合わせる方もいるなかで、図書館への思いが共通するからか、短い時間で皆さんが打ち解け、和やかな空気に包まれました。お互いの発言に耳をかたむける様子がそれぞれのグループで見られました。

参加理由

- 1月のワークショップにも参加。市民の意見がどのように活かされるのかに関心を持っている。自分の考えだけでは視野が狭くなるので、他の方の意見を知りたい。
- 図書館で借りない。本は買うことにしている。前回のワークショップは意見を出すだけだったので消化不良。
- 第一優先候補地が住まいの近所ということもあり楽しみにしている。まちの魅力となる図書館にするため少しでも意見を届けたいと思い参加。
- 学校図書館や公共図書館で勤務経験がある。いまは文庫活動に取り組んでいる。市民運動に関わるなかで、行政に声を届けたいと思っている。
- 公民館と市民協働で活動している。中央図書館でも市民協働でイベントができればよいと思う。

＜グループワーク＞

これまでのアンケート結果について説明のあと、グループワークをスタート。12のテーマに整理した意見や、選択回答式のアンケート結果から見えてきた傾向などをもとに、意見交換しました。ひとりひとりが図書館を運営する立場になって、寄せられた意見を改めて見直しました。【資料1・2】

ワークでの意見 A グループ

- アンケートから、図書館にいろんな機能が求められていることを知った。例えば、飲食可、会話可のスペースなど、図書館についての考え方（イメージ）を変えねばならないと感じた。逆に、静寂スペースも求められていることから、これらの要望をどのように整理していくのかが悩みどころ。
- 閉館時間の希望について、19時閉館希望が多いという報告があったが、20時、21時の希望も多いのではないかと。特に、中高生やビジネスパーソンは19時閉館だと行けない。また、静寂スペースの希望も多い。図書館は誰でも来られる場所であり、一人ですごせる場所も必要だ。今ある図書館の姿が否定されているのではないかと危惧している。
- アンケートから、これらの機能がすべて図書館にある必要があるかは疑問。（図書館以外の）別の施設でできることもあるのではないかと。ただ、子ども連れで長時間過ごす場所として設定するのなら、ただ本を借りるだけでない場所づくりが必要かと思う。そもそも、図書館が目指す場所（すがた）は？図書館に来ていない層を呼び込もうとしているのか？
- 司書の専門性やレファレンスが発揮されるような図書館であってほしい。
- 茨木市のおにクルのように、まちのシンボル、文化の拠点となる図書館。
- 新刊本のことばかり言われるが、図書館で絶版本を読めることも大事ではないか。

ワークでの意見 A グループ（続き）

- 自習スペースの要望は多いが、図書館だけではなく、豊中市として作っていく必要があるのでは。自習室は本来の図書館機能ではないと思う。スペース（面積）が限られているなか、こうした要望にどのように折り合いをつけていくか。
- 調べものをしたり、市の歴史文化に触れたりするのが、本来の図書館の機能だと思う。市には博物館もないし、中央館では郷土資料（地域資料）を大切に保存して欲しい。
- 市民参加の大人向けのイベントが定期的実施されることを希望。図書館ならではのイベントだとなおよい。中央公民館や文芸センター、アクア文化ホールも近くにあるので、適宜活用できればよい。
- 司書の専門性をアピールするイベント。例えば、司書がすすめる児童書の紹介など。それぞれの司書で専門分野があるはずなので、その話が聞きたい。
- 本の POP を作成するワークショップ。子どもでも大人でも参加できるもの。来館や本を読むきっかけになれば。
- イベントの広報が弱い。告知に SNS（Instagram や X）を活用すべき。今も読み聞かせは定期的に行っていると思うが、その情報がすぐ出てこない。豊中市ポータルサイトでも出てこないものがある。
- 一箱図書館（本棚）で本に親しんでもらうきっかけに。
- 本が好きな人の集まりを作りたい。場所としては、文芸センターの喫茶店は持ち込み可なのでそこらも活用してはどうか。
- 職員と接する機会が減っている。今はセルフ貸出機に案内され、対面で貸出してくれない。どちらでも対応してほしい。機械化されるときに、職員がフロアに出やすいように、といった話があったと思うが、現状、職員は忙しそうで声をかけづらい。職員数を増やしてほしい。
- 本を通して交流する場であるといい。
- 飲食「できる」スペースがあってもよいと思うが、飲食「しながら」図書館の本を読むことには反対。近年、本の取り扱いが悪くなっている印象があるため。
- カフェの併設は来館のきっかけとなるが、飲食可能、くらいにとどめては。
- ここ数年は夏の暑さが尋常ではない。マイボトル用の給水機がほしい。
- 郷土資料、地域資料を保存してほしい。こうした資料が図書館にあることを知らない人も多いので、入口付近に展示されているといいのでは。
- 図書館に書店を併設するというについては、図書館で何度も借りて気に入った本を書店で購入する人も多い（ので、悪くはない）。



ワークでの意見 B グループ

- 諸室や開架、閉架という言葉では伝わりにくい。もっと伝わる言葉を用いて欲しい。
- 学校図書館を地域に開放するというアイデアはどうなっているのか。個人的にはして欲しくない。
- 学校司書が任期付きというのはいかがなものか。より高い待遇で、3年という任期なく、専門性を発揮してもらってはどうか。
- 学校便が週2回というのは少ないと思う。
- 人とつながる図書館を求める声も多い。イベントや活動場所の確保。一方で静かな環境が求められている。そういう点に気づいた。
- 未就学児を対象にする事業は公共図書館が中心に担う役割ではないか。学齢期の子どもにはすでに手厚くサービスしていることを考えると、子連れの人が行きやすい場所であることは必須。
- 入門書も専門書も混配されているため一般の人が目的の資料を探すのは簡単ではない。だからレファレンスサービスが大切。NDCにとらわれない図書配置を望む。
- 新刊書店との併設を検討して欲しい。図書館に来る人が近くの書店で本を買う効果。図書館で新刊が提供されるまでタイムラグがあるし、予約多数の本はすぐに借りられないこともある。そうしたことを鑑みても書店の売りに貢献できる。winwinの関係。
- 本を借りたい人と調べたい人、ゆっくり滞在したい人、それぞれの考えがあることがアンケート結果から見てとれる。対象ごとにさらにアンケートしても良いのではないか。
- 24時間開館している図書館もあるが、その必要性に疑問を感じる。無人の時間もあるようだ。司書との関わりが大事。対面でのやりとりが大事。司書を減らさないことを望む。大切なのはレファレンスであり、それこそが公共図書館の役割である。
- 利用者数が多いのは千里図書館と野畑図書館。アンケートの実施場所によっては結果も違ったものになったのでは。尼崎市は中央館が2館、豊中でも中央館に加えて、千里図書館の2館体制を敷いてはどうか。
- 自分の意見から採用されているのが1つだけだった。50万冊となっているが、新刊7万点のうち図書館は5万点買うべき。それだけの資料費が必要。
- 足湯、ランチはいらない。
- 飲食スペースを必要とする人がとても多い。複合施設なら飲食スペースも期待できるのではないかな。
- 民間敷地だと地権者の意見が優先されるのではと不安を感じる。1階には図書館が入居していることを示す表示が必要。千里中央など市内の離れた地域からはバスなどの交通の便の確保が必要。自習室というニーズに応えるべき。地域館分館をしっかり支援し、ネットワークを機能させて欲しい。アンケート結果から、非常に期待されていることが読み取れる。
- 図書館は本を借りるところと思っていた。それが本来の目的のはず。自習室は図書館でなければいけないのか。飲食スペースも同様。アンケート結果から、どう考えてよいのかよく分からなくなってきた。
- 本は読んでおもしろいで良い。
- 電子書籍ばかりになることを危惧する。製本された本を読むことが大切だということを根付かせる必要がある。
- 建設地は曽根が良い。駅から雨に濡れずに行けるようになって欲しい。
- 中央館はもっと機械化することを望む。返却ポストは投函された資料がベルトコンベアーで運ばれ、仕分けされていくなど貸出や返却などの工程は機械化したほうが良い。人材はレファレンスに充てる。
- 選書会議を公開で行って欲しい。選書基準も公表して欲しい。見学したい。

ワークでの意見Ｃグループ

- 文化芸術センターや公民館のあるエリア。少し離れたところに豊島公園もあり、それらの施設が連携して、駅前全体で計画が進められるのが良いのでは。空中回廊でつながると車イスはもちろん来館者にとって便利。
- たとえば茨木市のおにクルのように、豊中市のイメージアップにつながる施設をつくり、全国にアピールするような図書館を期待する。そのためには敷地を市が買い取ることも考えても良いのでは。
- 和歌山市民図書館を利用すると、色味もきれいで、よい雰囲気。自習スペースの充実しているのが印象に残っている。また、木材を効果的に利用し、和歌山城など周辺の施設と相まって、とても強い印象を受けた。屋上からの見晴らしもすばらしい。
- 吹田市の北千里図書館は蔵書だけでなく、人が集まるための工夫がされていて、行ってみたくなる。
- 周辺施設のイベントに加え、図書館もイベントを行うことでエリア全体のイベント開催が充実する。たくさんの方が集まってくる。会話も生まれ、交流が盛んになる。
- 人を集めようとする、小さく考えるのではなく、大胆な発想で取り組むことが必要。文化の中心を曽根にしていくという計画は大きく。従来の延長線上で考えないで欲しい。
- 豊中を象徴するものは、音楽なのか、芸術なのか、飛行場なのか、決定的なものがない。豊中色をつくる。そういう意味でヴァイキングの壁面画を残す選択もある。
- 地域の偉人や特産品に関連した資料を成人向けのコーナーだけでなく、子どものスペースにも設けてはどうか。地域を知る機会を提供すべき。
- 子育て中の人にとって、話すことがストレス発散につながることもある。気軽に無料でというスペースは少ないので図書館に期待が寄せられるのだろう。豊橋市のココニコのように、木のおもちゃや子ども向けの遊具があって、子育て支援をおこなう機能もある。参考にしてはどうか。
- 子どもがいと借りる本も多くなるし、いろいろ荷物が増える。車で行けると便利。岡町図書館には駐車場がない。中央館ではたくさんの駐車場が必要。
- 必ずしも鉄道での市内移動が便利な訳ではない。ループバスなど市民の共有の交通手段があると行きやすくなる。
- 開館時間は長いほど便利ではあるが、職員の負担増にならないか気になる。時間帯によっては図書館職員が不在になっても良いのでは。警備巡回や防犯カメラによって館内の安全も確保できる。
- 新中央館のフロアが２層に分かれるなら、別フロアに行くときに貸出手続きをしなければいけないのは不便。諸室の配置によって、不便さを解消できないだろうか。
- 自学自習室はいろいろな人が使えるように。人によっては学生向けというイメージが強い。イメージを改めて多世代で共用したい。思い切って、時間帯や曜日で利用対象を制限してもよいのでは。
- カフェは図書館外部にあれば良い。なぜ読書中に食事をしたくなるのか理解しにくい。長く滞在するにしても、館内になくても良いと思う。複合機能を活用すべき。
- この日はこういう日、この時間帯はこういう目的向け、といったように、同じ場所を日時で使い分けて多世代・多目的で共有できるようにしてはどうか。

次回、**10月20日（日曜）**

10時30分から12時30分

本記録や事前資料にお目通しのうえ、ご参加いただけますと幸いです。

お問い合わせ

豊中市教育委員会事務局 読書振興課
TEL 06-6843-4553(岡町図書館内)
Email okamachito@city.toyonaka.osaka.jp